

LRQA独立保証声明書

豊田通商株式会社の 2024 年度環境データに関する保証

この保証声明書は、契約に基づいて豊田通商株式会社に対して作成されたものである。

保証業務の条件

LRQA リミテッド（以下、LRQA という）は、豊田通商株式会社（以下、会社という）からの委嘱に基づき、2024 年度（2024 年 1 月 1 日～12 月 31 日）の会社の別添の表 1、2、3、4、5、6 に要約された GHG 排出量と主な環境データに対して、検証人の専門的判断による重要性水準において、ISAE 3000（改訂版）及び温室効果ガス（GHG）排出量については ISO14064-3:2019 を用いて、限定的レベルの独立保証業務を実施した。

LRQA の保証業務は、会社とその国内外連結子会社における運営及び活動に対して、以下の要求事項を対象とする。

- 会社の定める報告手順への適合性の検証
- 以下の指標に関するデータの正確性及び信頼性の評価
 - 温室効果ガス排出量¹
 - スコープ 1 GHG 排出量²（トン CO₂e）
 - スコープ 2 GHG 排出量 [ロケーション基準、マーケット基準]（トン CO₂e）
 - スコープ 3 GHG 排出量（カテゴリー1~15）（トン CO₂e）
 - エネルギー消費量（MWh）
 - 水消費量（m³）
 - 廃棄物量³（トン）
 - バイオマス燃料消費量（トン、kL）及び GHG 排出量（トン CO₂e）

LRQA の保証業務は会社のサプライヤー、業務委託先、及び第三者に関するデータ及び情報を除くものとする。

LRQA の責任は、会社に対してのみ負うものとする。本声明書の脚注で説明されている通り、LRQA は会社以外へのいかなる義務または責任を放棄する。会社は全てのデータ及び情報の収集、集計、分析、公表、及び基となるシステムの効果的な内部統制の維持に対して責任を有するものとする。データは会社によって承認されており、その責任は会社にある。

LRQA の意見

LRQA の保証手続の結果、会社が全ての重要な点において、

- 自らの定める基準に従ってデータを収集、集計していない
- 別添の表 1、2、3、4、5、6 に要約された GHG 排出量と主な環境データについて正確かつ信頼性のあるデータと情報を開示していない

ことを示す事実は認められなかった。この保証声明書で表明された検証意見は、限定的保証水準⁴、及び検証人の専門的判断に基づいて決定された。

¹ GHG 排出量の算定は固有の不確かさを持つ。

² スコープ 1 GHG 排出量にはエネルギー起源及び非エネルギー起源が含まれる。非エネルギー起源 GHG の算定対象活動は 2006 IPCC Guideline を参照し、拠点単位、温室効果ガスの種類ごとに年間 3,000t-CO₂e 以上排出しているものを報告している。

³ 廃棄物量は会社とその国内連結子会社のみを対象とする。

⁴ 限定的保証業務の証拠収集は、合理的保証業務に比べて少ない範囲で行われ、各拠点を訪問して元データを確認するより集計されたデータに重点を置いている。従って、限定的保証業務で得られる保証水準は合理的保証業務が行われた場合に得られる保証に比べて実質的に低くなる。



保証手続

LRQA の保証業務は、ISAE3000 (改訂版)と GHG 排出量については ISO14064-3:2019 に従って実施された。保証業務の証拠収集プロセスの一環として、以下の事項が実施された。

- 環境データに重大な誤り、記載の漏れ及び誤りが無いことを確認するための、会社のデータマネジメントシステムを審査した。LRQA は、内部検証を含め、データの取扱い及びシステムの有効性をレビューすることにより、これを行った。
- データの収集と集計に関わる主たる関係者へのインタビューを行った。
- サンプルング手法を用いて、集計されたデータの再計算と元データとの突合を行った。
- 2024 年の環境データに関する記録および情報の検証を行った。
- データマネジメントシステムの運用状況を評価する為、MOST, INC.と豊田ケミカルエンジニアリング株式会社を訪問し、データの収集及び記録管理の実施状況の確認を行った。

観察事項

報告値の収集・集計の過程におけるマニュアルの整備、データチェックの強化、役割分担の方策などにより、正確性と網羅性の向上が期待される。

基準、適格性及び独立性

LRQAはISO14065 “温室効果ガス—認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項”、ISO17021-1 “適合性評価—マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項—第1部：要求事項”に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。これらは国際会計士倫理基準審議会による国際品質管理基準1と職業会計士の倫理規定における要求も満たすものである。

LRQAは、その資格、トレーニング及び経験に基づき、適切な資格を有する個人を選任することを保証する。

全ての検証及び認証結果は上級管理者によって内部でレビューされ、適用された手続が正確であり、透明であることを保証する。

LRQAは会社の ISO 14001の認証機関である。また、LRQAは会社に対して、マネジメントシステムに関する様々なトレーニングサービスを提供している。検証・認証評価及びトレーニングは、LRQAが会社に対して行っている唯一の業務であり、これによりLRQAの独立性や公平性を損なうことはない。

署名

2025 年 9 月 3 日

上野 一郎

LRQA 主任検証人

LRQA リミテッド

神奈川県横浜市内西区みなとみらい 2-3-1 クイーンズタワーA 10F

LRQA reference: YKA4005591

LRQA, its affiliates and subsidiaries, and their respective officers, employees or agents are, individually and collectively, referred to in this clause as 'LRQA'. LRQA assumes no responsibility and shall not be liable to any person for any loss, damage or expense caused by reliance on the information or advice in this document or howsoever provided, unless that person has signed a contract with the relevant LRQA entity for the provision of this information or advice and in that case any responsibility or liability is exclusively on the terms and conditions set out in that contract.

The English version of this Assurance Statement is the only valid version. LRQA assumes no responsibility for versions translated into other languages.

This Assurance Statement is only valid when published with the report to which it refers. It may only be reproduced in its entirety.

Copyright © LRQA, 2025.

表 1. GHG 排出量インベントリ（2024 年）の要約

Scope		tCO ₂ e
スコープ 1 GHG 排出量		425,926
	エネルギー起源	318,219
	非エネルギー起源	107,708
スコープ 2 GHG 排出量（ロケーション基準）		286,720
スコープ 2 GHG 排出量（マーケット基準）		259,939
スコープ 3 GHG 排出量（合計）		113,226,110
	カテゴリー1	72,281,524
	カテゴリー2	593,227
	カテゴリー3	122,440
	カテゴリー4	3,688,698
	カテゴリー5	20,183
	カテゴリー6	9,037
	カテゴリー7	30,576
	カテゴリー8	0
	カテゴリー9	4,986,476
	カテゴリー10	142,640
	カテゴリー11	28,214,588
	カテゴリー12	16,893
	カテゴリー13	25,751
	カテゴリー14	6,229
	カテゴリー15	3,087,848

※スコープ 1 GHG 排出量にはエネルギー起源及び非エネルギー起源が含まれる。非エネルギー起源 GHG の算定対象活動は 2006 IPCC Guideline を参照し、拠点単位、温室効果ガスの種類ごとに年間 3,000t-CO₂e 以上排出しているものを報告している。

表 2. エネルギー消費量の要約

	MWh
エネルギー消費量	3,012,117

表 3. 水消費量の要約

	m ³
取水	11,050,510
河川、湖沼、自然池からの地表水	345,727
雨水	43,365
海水	1,637
地下水 (井戸水)	1,027,916
地下水 (化石水)	6,646,937
採掘場で採取された水	0
都市用水 (上水、工業用水)	2,984,928
排水	9,925,026
河川、湖沼、池	2,142,692
海洋	72,599
地下／井戸	6,544,496
オフサイトの水処理施設	1,165,239
消費量	1,125,484

表 4. 廃棄物量の要約

	ton
廃棄物量	50,566

※廃棄物量は、豊田通商株式会社、および国内連結子会社のみを対象とする。

表 5. バイオマス燃料消費量

バイオマス燃料消費量 (ton)	232,173
バイオマス燃料消費量 (kL)	1,584

表 6. バイオマス燃料消費量による GHG 排出量

	t-CO ₂ e
バイオマス燃料消費による GHG 排出量	265,424